TTC 提案山行実施記録表　2013年8月4日　報告者:　坂本　達治　　(1/3)

山行名	利尻山#・礼文島　　[1,721m　北海道]
実施日	2013年7月28日[日]～31日[水]　3泊4日　航空機・公共交通機関利用
天候/ 参加人員	天候:7/28:曇時々晴、7/29:曇後晴、7/30:晴時々曇、7/31: 晴時々曇　レベル:★★★ 参加者:申込10 名/実施 7 名(男性 4 名／女性 3 名)
パーティ スタッフ	CL/計画/:、SL:、会計:、救護:、 写真:/　　スタッフ名削除
参加メンバ	参加者名削除
費用 **一人当たり;** **90, 610円** **TTC カンパ金:** **830円**	●電車_本厚木駅～羽田空港:@890/人、海老名駅～本厚木駅:@120/人 ●バス_稚内空港～稚内港:@590/人、羽田空港～海老名駅:@1,500/人 ●タクシー_利尻見返台園地～沓形なごり荘(1 台分):¥1,650、稚内港～稚内空港(2 台分):¥7,660 ●フェリー_稚内港～鴛泊港:@2,180/人、沓形港～香深港:@880/人、香深港～稚内港:@2,400/人 ●航空券+宿泊(利尻マリンホテル)1 泊分:¥425,780　●宿泊費_沓形　民宿なごり荘:@8,000/人(うに料理 @1,000/人含む)、香深　旅館かもめ荘:@11,000/人 ●その他_沓形温泉入湯料:@400/人、通信費:¥2,000、共同装備(ガスボンベ):¥630 ●カンパ金:¥830　　**総額:¥634,270　⇒　一人当り@90,610**

歩行／行動時間

	7/29[月]			7/30[火]			7/31[水]		
	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
ｶﾞｲﾄﾞﾌﾞｯｸ	8:45	－	－	4:20	－	－	－	－	－
計画	9:40	1:10	10:50						
実行	8:37	3:08	11:45	3:50	1:00	4:50	1:00	0:05	1:05

実行コースタイム記録

7/28[日]

[ANA571 便]　[ｴｱﾎﾟｰﾄﾊﾞｽ]　[ﾌｪﾘｰ]
本厚木=====海老名=====横浜=====羽田空港=====稚内空港=====稚内港=====利尻島　鴛泊港=====利尻マリンホテル
8:31　8:35-41　9:16-29　9:55-11:00　12:50-13:10　13:45-15:40　17:20-25　17:40

7/29[月]

[送迎ﾊﾞｽ]　0:10　0:27　0:33　0:24　0:23　0:33
利尻マリンホテル=====利尻北麓野営場----甘露泉水----4 合目----5 合目----6 合目　第 1 見晴台----7 合目----第 2 見晴台-----
4:00 起床-4:58　5:05-25　5:35-39　6:06-12　6:45-55　7:19-25　7:48-57　8:30-42
0:17　0:15　0:30　0:38　0:25　[昼食]　0:30　0:30　0:30
----<小休止>----8 合目長官山-----避難小屋----9 合目----沓形分岐----利尻山(北峰)----沓形分岐----親不知子不知----
8:45-51　9:05-15　9:30-45　10:15-32　11:10-15　11:40-12:15　12:45-50　13:20
0:32　0:52　0:33　0:35　[ﾀｸｼｰ]
---- 9 合目三眺山----8 合目夜明しの坂----7 合目避難小屋----6 合目五葉の坂----5 合目見返台園地====沓形(民宿なごり荘)
13:50-14:03　14:35-45　15:37-52　16:25-35　17:10-55　18:10

7/30[火]

[ﾌｪﾘｰ]　[送迎ﾊﾞｽ]　0:35　0:45　0:32
沓形(民宿なごり荘)=====沓形港=====礼文島　香深港=====桃岩展望台ｺｰｽ桃岩口-----林道入口-----ﾚﾌﾞﾝｳｽﾕｷｿｳ群生地-----
6:00 起床-9:10　9:30-10:10　10:50-55　11:05-25　12:00　12:45-13:25
0:23　0:05　1:00　0:30　[送迎ﾊﾞｽ]
-----林道入口-----桃岩展望台ｺｰｽ桃岩口-----展望台-----元地灯台-----桃岩展望台ｺｰｽ知床口=====香深(旅館かもめ荘)
13:57　14:20-30　14:35-40　15:40-45　16:15-35　16:55

7/31[水]

[送迎ﾊﾞｽ]　[ﾌｪﾘｰ]　[ﾀｸｼｰ]　0:10　0:40　0:15
香深(旅館かもめ荘)=====香深港=====稚内港=====稚内空港-----メグマ沼入口---<メグマ沼湿地帯散策>-----メグマ沼入口-----
5:00 起床-7:00　7:10-30　9:25-35　10:00-30　10:40　11:20
[昼食][ANA572 便]　[ｴｱﾎﾟｰﾄﾊﾞｽ]
-----稚内空港========羽田空港=====海老名=====本厚木
11:35-13:35　15:25-16:10　16:45-54　16:59

2012 年の夏を中心に設定されたビッグ山行が一段落して秋風が吹き始めた頃であったろうか、思いは既に翌年に馳せ、「どこに行こうか？ どんな企画が良いか？」という話題となった。SaK さんと今回の山行に申込みをされたがやむなき事由によりキャンセルされた KT さんと一献傾けていたときの話である。いくつかの案が出されたものの比較的すんなりと「北の果ての利尻と南海に浮かぶ宮之浦を同年内で一気に征服する」ことで話が落着き、計画分担もその場で決まった。今回の利尻・礼文山行はその第一弾であり、10 月下旬に計画されている屋久島_宮之浦岳とセットで完結を迎えることになる。

利尻・礼文山行の計画/CL を担当させていただくことになったが、要(かなめ)となる『航空券+1 泊分の宿』の手配を SaK さんにお願いした。当初、土曜日出発で考えていたが、日曜日出発に変えるだけで一人当り 21,500 円安くなる等、詳細は省略するが随所に肌目細かい調査、対応をしていただいたことが、今回の快適なツアーの基盤となった。この場を借りてお礼申し上げたい。なお今回は山小屋ではなく一般の宿で3泊することになることから、『ホテル→民宿→旅館』と趣の異なる3タイプの宿を楽しむ設定とした。

実施日直前の天気予報は決して芳しいものではなかった。曇マークに傘マークもちらほら見える状況であったが、実際には4日間を通してレインウェアを着ることは一度もなく、利尻岳からは礼文島をほとんどいつも見下ろすことができたし、また、礼文島に渡った後はドッシリと構えた利尻富士を常に拝むことができた。天の神様に感謝の念で一杯である。

両方の島で枚挙にいとまがないほどの花々に出会うことができたことも特筆すべきことの1つである。花の知識に非常に乏しい CL でも一面に広がるお花畑に感動を覚える感受性は持ち合せているつもりであるが、花の色や形、葉の状態から特性まで色々なことをご存知の方にとっては何倍も感動されて堪らない山行だったに違いない。花談義が歩行中に限らず、ずっと続いた。今回のメンバーでは圧倒的に豊富な知識を有する HM さんが花博士の本領を存分に発揮されたが、両島の花々に関するコメントをまとめていただいたので後述する。

7/28[日] 曇時々晴 6名は本厚木駅に集合し、また1名は平塚から直接空港に向かい、予定通り羽田で合流、全てが順調で稚内空港からエアポートバスを利用して稚内港に到着した。ここでフェリー出発まで約2時間の待ち時間があり、昼食にラーメンを頂き(味はイマイチ)、共同装備のガスカートリッジの買出しを行なった。フェリーは穏やかな水面(みなも)を滑るように進んでいく。オホーツクの海を眺めていると数時間前までの喧騒がまるで嘘のように感じられる。3分の2位は雲に覆われていた利尻山が近づくにつれてだんだんと顔を出してきて、welcome の手招きをしてくれているようである。鴛泊(おしどまり)港に着くと宿の方が迎えにきており、15分ほどでホテルに到着。早速、風呂で汗を流した後、海の幸を中心とした豪華な食事に舌鼓を打ち、明日の利尻山に思いを馳せながら早々に眠りについた。

7/29[月] 曇後晴 5時の送迎バスに乗り込んで登山口(利尻北麓野営場)に向かう。利尻マリンホテルからの登山客は我々のみであったが、同時刻に他の宿からも登山客が続々と送られてくる。外来種防止のためのプールで靴底に着いている可能性のある種をよく洗い落として、いよいよ今回の山行のハイライトである利尻山に向かって出発。10分ほど歩くと最北端の名水百選_甘露泉水に到着し、冷たい水(通年 5.5℃なのだそうだ)で喉を潤す。鴛泊コースはよく整備された登山道でとても歩き易い。各合目を表わす道標もシッカリしていて分かりやすく、第一見晴台や第二見晴台では好天に恵まれたお蔭で素晴らしいビューを堪能することができた。

このところ TTC 主催山行の参加回数 No.1 を誇る TS さんといろいろな山行でご一緒する機会が多いが、回を重ねる度にメキメキと力をつけられており、自分の歩行ペースを身に着けて安定した歩きを示されている。7合目辺りだったと思うが本人曰く「とても歩きやすいので、ここまではほとんどハイキング気分…♪」には恐れ入りました。事実とは異なるが、「先導する CL の歩き方がとても良かった」ということにしておいて下さい。更に脱線するが、TS さんはアルコールを全く受付けない体質であるにも拘らず、毎夜のアルコール付き反省会に参加いただいて、羽目を外しがちな飲兵衛軍団とほぼ互角に渡り合っておられたのにも、恐れ入りました。

9合目に到着すると『ここからが正念場』の看板があり、事前の調査でもここからが厳しくなることが分かっていたので、軽食を取ったりしながらゆっくり休憩して、最終アタックに挑む。確かに9合目までとはガラリと趣が変わってガレ場や厳しい登りの連続となる。登山道整備のために膨大な費用と情熱が注ぎ込まれていることが伝わってきて、先人達のこのような努力の積重ねがなかったら、利尻山の頂を踏むことはできなかったに違いない…と感謝の気持ちを込めながら一歩々々慎重に歩を進めていく。ここまで登ってきたからこそ楽しむことができる一面のお花畑があちらにもこちらにも広がって歓声が上がる。頂上(北峰)に到着すると、ここでも視界良好でパノラマビューと共に目の前にろうそく岩がそびえ、2㍍高い最高峰の南峰への道は崩壊が進み危険なため、一般登山者の通行は制限されている状態であった。頂上に設置してある社の周辺で昼食としたが、ここだけ無数の小さな虫が飛び交っており、このことは残念であった。密かに(という話をこんなところで暴露してよいのか？)、大目標(=百名山完登)を掲げてこのところ精力的に取組んでおられる KE さんはこの山で何座目になるか存じ上げないが、秒読み態勢とまではいかないもののゴールが見え始めた状態にはあるようだ。今後もできる範囲内での協力は惜しまないつもりである。少なくとも記念の百座目の際には是非ご一緒させていただきたいと思う。

下山は、沓形分岐までは荒れた道をピストンで下ることになるので、より慎重にゆっくりと下った。沓形コースに入る分岐以降は9合目辺りまで岩稜帯やガレ場のトラバースがあり、上級者向きの設定となっている。「雨が降った場合には鴛泊コースをピストンで降りた方がよい」と事前の問合せの際に何度も薦められたし、今朝も送迎バスの運転手に念を押された。幸いに雨や風がなく断念する理由が何もないので、沓形コースに向かおうとすると、分岐で休んでいた登山者から「おいおい、そちらに向かうのかい？」と声をかけられた。こういうときのために我がチームには強い味方 SeK さんがおられるので、すかさず先導をお願いした。確かに濡れていたら滑りそうな岩場があったし、ガレ場はズルズルと崩れやすく、慎重に進んで行った。それも9合目三眺山までで、登りとは異なる山麓や海岸線の景色が広がって、目を楽しませてくれる。沓形コースの下りで他の登山者とは誰一人、追い越されることもすれ違うこともなかった。ここで SeK さんの話題を 1 つ。花博士 HM さんのほとばしる知識を貪欲に吸収し、持参されていた花図鑑で勉強しながら 4 日間でポテンシャルを格段に向上されたと思

われる。TTC の花博士の皆さま、機会がありましたら実力のほどを厳しくチェックして頂けたらと思います。 (3/3)

登りおよび下りの9合目までの岩場・ガレ場対応で消耗してしまったためか、5合目見返台園地までが結構長く感じた。各人 1.5～2 ﾘﾄﾙの水を持って登ったが、約 12 時間の行動時間と長く、気温も高かったため充分ではなく、下山口で自動販売機を見つけると全員、飛びつくように飲み物を購入した。ほとんどの人が1本ではもの足りず2本も(中には3本の人も)飲んでいたほどであった。本日お世話になる民宿なごり荘に連絡して手配していただいたタクシーに2往復してもらって宿に到着。本日は我々7名のみで貸切り。早速風呂であるが、内風呂は少人数しか入れないので、徒歩で5分位のところにある日帰り温泉を割安(¥400/人)で紹介を受け、こちらを利用することにした。また、夕食のエキストラとして今朝、市場から仕入れた新鮮な生ウニ(¥1,000/人)があるというのでこれもお願いした。夕食の用意ができたというので食卓について一同唖然、準備していただいたおかずの多さにビックリである。確かに喉はカラカラ、腹はペコペコで海の幸を中心とした料理は食欲をそそられるがとても食べ切れるとは思えない。案の定、最大に食べた人でも 4 分の 3 程度と贅沢三昧な気分と非常にもったいない複雑な気分が入り混じって食事を終えた。

7/30[火] 晴時々曇 礼文島(香深)に向かうフェーリの出発時間は 10:10 であり民宿からゆっくり歩いて 20 分くらいのところに乗場がある。近くのコンビニに昼食の買出しに出掛け、朝食をゆっくり頂いてもまだ8時過ぎ。民宿の女将さんの計らいで近所の海産物関係のみやげ物屋に電話して開けてもらうことで調整いただいたが、「今、“あまちゃん”を観ているので、これが終わったら開ける」との何とも庶民的な快い回答を頂いた。中には宅配便で配送する人もいて、利尻島ならではのおみやげを各人買い込み、安くてボリュームタップリの民宿を後にした。

利尻(沓形港)から礼文(香深港)までは40分ほどである。港に着くとここでも旅館の女将と運転手が迎えに来てくれており、着替え荷物等は預けて早速、礼文岳に向かう。「山は昨日、充分に堪能したので今日はお花が目当て…」というような話をしていたら運転手が、「礼文岳に行ってもそんなに花はないよ。花を見るなら桃岩展望コースを歩いた方が遥かにいいし、レブンウスユキソウの群生地も近くにある」との紹介を受けて、急遽、コース変更することにした。このコースは年配のツアー客(我々の層よりももっと年配の方々)も多く訪れているハイキングコースで、たくさんの花とともに海岸線の絶壁や奇岩とのバランスが絶妙で、見上げると昨日に踏破した利尻富士がいつも見えて、改めて良い天候に恵まれたことに感謝しながら、昼食も含めて5時間ほどのハイキングをのんびりと楽しんだ。

旅館かもめ荘は海沿いにあるとても綺麗な宿で、築14年も経っているとは思えないほど行き届いていた。昨日の民宿とは異なる質的にも量的にも上品な夕食を頂いた後は部屋に戻ってご多分に漏れずに大反省会(2名はお疲れモードで早々に沈没)で最後の夜を楽しんだ。今回参加メンバー7名の内6名が10月下旬の宮之浦岳山行に参加することになるので、チームビルディングはもう完璧である。

ところで、今回の会計は KS さんにお願いしたが、通常の山行と比べると格段に大変だったと思われる。宿泊先が3泊とも一般宿で連夜の宴会(いやいや反省会です)があり、空港やフェリー乗場で待ち時間が多くあったことから、各人が適宜(？)調達したアルコール類の費用を、飲む人、飲まない人に分けながら処理していただいた。公式会計記録には表われない大変な会計処理がバックにあったことを付け加えておきたい。

7/31[水] 晴時々曇 4日目も爽やかな朝である。「早朝の第1便フェリーではなく午後からの便であれば、礼文島のもっといいところをご案内することができたのに…」と女将さんに言われたが、後ろ髪を引かれる位が丁度良いと気持ちを切替えて宿を後にした。香深港から稚内港を経由して稚内空港まで順調に移動して、空港では3時間以上の待ち時間がある。昼食やショッピングを考慮しても充分過ぎる時間があることから、タクシー運転手に紹介してもらった空港近くにある、1時間位で周遊できるという“メグマ沼湿地帯”を散策して、最果ての地での最後の余韻を楽しんだ。稚内空港を予定通り飛び立ち、羽田空港からは海老名までエアポートバスを利用して、ほぼ予定通りの17時過ぎに本厚木に無事帰着した。

【花博士 HM さんのコメントを以下にまとめて記す】

利尻で北麓野営場から歩き始めた時に、まず目についたのが**マイズルソウ**だが、その大きさにびっくりさせられた。他にも、**フキ、ツバメオモト**などが本州とは違った大きさで、「さすが北海道、でっかいどう」だと感じた。行程の中で終始見られたのが**チシマアザミ**だった。標高が上がるにつれ、**オニシモツケソウ**や**イブキトラノオ、ミソガワソウ、オニタデ、ハナウド、カラマツソウ、キンポウゲ、バイケイソウ**などが群生して花畑を形成しており、私たちの目を楽しませてくれた。岩場では、**イワギキョウ、イワベンケイ、マルバギシギシ、ヤマハハコ、イワツメクサ、エゾハハコヨモギ**などが見られ私たちの疲れを癒してくれた。また、本州では見られない**リシリリンドウ**や**ボタンキンバイ、リシリヒナゲシ、シュムシュノコギリソウ**なども見ることができ、感動だった。特に、**リシリヒナゲシ**はたった一輪しか目にすることができなかったので、本当に希少種であることが分かった。何とか絶滅せず咲き続けてほしいと祈りたくなった。そのほか、**エゾツツジ**や**クルマユリ、キヌガサソウ、タカネナデシコ、チシマフウロ、ミヤマアズマギク**などを楽しむことができた。

礼文では、有名な**レブンアツモリソウ**の花の時期は終わってしまっていたが、**レブンソウ、レブンウスユキソウ、カンチコウゾリナ、カイタカラコウ、ハイオトギリ、エゾゴマナ、チシマワレモコウ、エゾノヨツバムグラ、タカネバラ**などを目にすることができた。花に関しては礼文のほうが利尻より有名だが、「利尻の花畑のほうが素敵だったね」という声が多かった。標高が高く、遅い雪解け後に精いっぱい咲き競っている花の気高さを感じてか、息を弾ませながら苦労して登ったからこそ見ることができ、より美しく感じられたのか、その辺はよく分からないが…。

利尻と礼文、両島の花を楽しむことができて本当に良かったと感じた。隣り合う島なのに、その島にしか見られない花があり、同じ花でも開花期や咲く姿に違いがあることがわかった。たくさんの花々と出会い、心から楽しませてもらうことができたことは本当に幸せだった。

— 以上 —